BEST OF キラリ　2022

月	名前	選出理由	事例内容（概要）	事例で一番伝えたいこと	推薦者
7月	景山　侑紀	Ⅰ.「民医連のめざす看護の基本となるもの」の評価視点である以下の3点が特にすばらしくBESTOfキラリに認定しました。 ①患者の見方・捉え方：人間は、社会のありようや周囲の人たちの働きかけの影響を受けて変わることができると捉えたか ②看護の視点：患者の状況や訴えなど事実をありのままにとらえ、想像力を働かせて理解し、共感する ③看護の視点：患者の潜在的、顕在的な要求を引き出し、受け止め、その実現に向けて取りくむ Ⅱ.看護師は専門的知識を生かし、患者の症状に対して苦痛緩和や精神面のケアを行うことができることを改めて感じた事例	76歳男性　身寄り無し。腹痛で動けなくなり救急搬送され入院し、原発不明癌の肝転移、肺転移の終末期とわかる。入院前ADL自立していたが急に動けなくなり、ボディーイメージの変容等に戸惑う姿や意欲の低下があった。病状について話をしたことで、自分の体の変化に向き合う機会となり、したいことを話してくれるようになった。貧血、黄疸、腹水など症状に合わせたケアを、丁寧に説明を加えながら行うことで、患者は自分の変化を受け入れ「こうして過ごせるだけよかった」と話しをしてくれた。	看護師は解剖整理、疾患、治療などの専門的知識を持っていることで、苦痛緩和ができること、信頼につながることを体験した。日常生活援助を行いながら、患者の背景、病態から看護介入できることを考え、患者の精神面のケアにもつなげたい。	簗瀬主任
8月	相木　伸夫	Ⅰ.「民医連のめざす看護の基本となるもの」の評価視点である以下の3点が特にすばらしくBESTOfキラリに認定しました。 ①患者の見方・捉え方：患者を個人として尊重され生きる権利が保障される存在であるととらえたか ②看護の視点：患者の状況や訴えなど事実をありのままにとらえ、想像力を働かせて理解し、共感する ③看護の融点：患者の「継続性」「統合性」を一貫して追求している Ⅱ.日常生活行動援助から誉め言葉をつづけたことで、やる気をアップした事例	81歳女性　腎盂腎炎加療後廃用症候群。夫と二人暮らし 本人のやる気がなく終日テープ式おむつでの排泄となっていたが、毎食車椅子乗車し、食前後にトイレ誘導を開始したところ、本人から「トイレに行きたい」とコールを押すようになった。その後も、継続していくことで、ベッドからの起き上がりも軽介助となり、車椅子移動も見守りで行えるようになった。動きの良い時には本人のやる気が出るよう褒める声掛けを繰り返した。 「そんなこと言ってくれるの先生だけだよ」と本人の反応も見られるようになった。 やさしい声掛けを繰り返したことで本人のやる気に繋がった。	患者自身から「トイレに行きたい」という言葉を引き出した毎食時前後にトイレ誘導をきっかけに、本人のやる気を引きだすことができた。また、誉め言葉をつづけたことで、本人のやる気がアップした事例。 テーマ：繰り返すこと・誉め言葉・やる気を引き出す	吹田看護部長
9月	中島　麻子	Ⅰ.「民医連のめざす看護の基本となるもの」の評価視点である以下の3点が特にすばらしくBESTOfキラリに認定しました。 ①患者の見方・捉え方：患者を個人として尊重され、生きる権利が保障される存在であるととらえたか ②看護の視点・優点／：患者の状況や訴えなど事実をありのままにとらえ、想像力を働かせて理解し、共感する ③看護の視点・優点：患者の病態、生活史、労働し、環境を重ねて理解し、共感する Ⅱ.患者の訴えや生活史から、患者の思いを引き出し寄り添い、患者に安心と生きる力を与えた事例	67歳　男性 肺がん、多発脳転移、肝転移、骨転移で当院入院し、放射線照射のため、都立駒込病院に転院し、1週間後継続加療目的にて再入院となった。 転院前から動くことができず、ベッド上で過ごしていたため、声掛けし、ベッドごと談話室に移動し、髭剃りなどを行った。もともとコーヒーが好きだったとのことで、コーヒータイムを取り、会話しながら話を傾聴した。そのときは穏やかに過ごすことが出来た。転院し、再入院の際も、同様にベッド上から動くことが出来ず、本人からコーヒータイムの希望があった。合間を見てであったが、その際にも、明るい場所へ行き、話を傾聴することができた。	日々の業務の中でも、ケアの時間を作り出すこと、少しずつでも寄り添う気持ちが伝われば、信頼関係にも繋がっていくこと、日々の中に患者様の大切な時間も意識していきたいと思った。 テーマ：患者の気持ちに寄り添い、患者の思いに共感することの大切さ	加藤副看護部長
10月	小森田　真衣	Ⅰ.「民医連のめざす看護の基本となるもの」の評価視点である以下の3点が特にすばらしくBESTOfキラリに認定しました。 ①患者の見方・捉え方：様々な制限に対して能動的に働きかけ、変わる事ができる存在であるととらえたか ②看護の視点：患者の状況や訴えなど事実をありのままにとらえ、想像力を働かせて理解し、共感する ③病態を生命活動（生物が生命を維持するために営む活動）としてとらえ、理解する　Ⅱ患者・妻の思いを尊重し、気持ちに寄り添い、看取りを一緒に迎えられた事例	男性。コロナ病棟に入院されていた。在宅では長い間妻が介護していた。 急変時、妻が来院されるまで声かけを心がけた。間もなくI妻が来院されることを伝えた所、意識が朦朧としている中、グッと開眼した。妻の付き添い、見守りのもと心停止された。妻が来る迄待っていたのだなと思った。忘れられない場面だった。ご夫婦はとても関係が良好であり、妻の介護に対し有難く思っていたし、開眼したことを妻に伝えたら「すごくうれしかった」と涙ぐまれていた	急変時、心停止する前に間に合うように家族に連絡でき、最期を看取れるような役割をこれからもしていきたいと心から思いました テーマ：患者・家族に寄り添う事の大切さ	眞柄師長

月	名前	選出理由	事例内容（概要）	事例で一番伝えたいこと	推薦者
11月	大橋　結華	Ⅰ.「民医連のめざす看護の基本となるもの」の評価視点である以下の3点が特にすばらしくBESTOfキラリに認定しました。 ①患者の見方・とらえ方：患者を個人として尊重され生きる権利が保障される存在であると捉えたか。 ②看護の視点：患者の状況や訴えなど事実をありのままに捉え、想像力を働かせて理解し、共感する。 ③看護の視点：患者の潜在的・顕在的な要求を引き出し、受けとめ、その実現に向けて取り組む。 Ⅱ．患者の不安をうまく拾い上げ、患者の自尊心を傷つけず、羞恥心に配慮したケアができた事例	86歳男性　低体温症で入院。穏やかな性格でナースステーションで過ごすことが多かった。ある日、患者をベッドに戻した際、靴から強いにおいがして、本人からも「足と靴がにおうんだよね」と発言があった。その日は人手不足で対応できなかったが、数日後の夜勤の日、本人の承諾を得て、消灯後に靴を洗って、翌朝に足浴をした。患者より「実はリハビリの時に足のマッサージもしてもらうから、足がにおうのがすごく気になっていたんだ。だけど自分ではどうにもできないし、看護師さんにも悪いと思っていた。入院中に靴がきれいになるなんて思っていなかった。本当にありがとう」と感謝された。	患者の羞恥心や自尊心を尊重するためのケアを大事にしていきたい。 テーマ：自尊心に配慮したケア	伊藤師長
12月	本村　彩	1.「民医連のめざす看護の基本となるもの」の評価視点である以下の3点が特に素晴らしくベストオブきらりに認定しました。 ①患者の見方・捉え方：人間は様々な制限に対して能動的に働きかけ、変わることができる存在であるととらえたか。 ②看護の視点：患者の状況や訴えなど事実をありのままにとらえ、想像力を働かせて理解し、共感する。 ③看護の視点：患者の潜在的、顕在的な要求を引き出し受け止めその実現に向けて取り組む。 Ⅱ．看護師は専門的知識を生かし、患者の気持ちに寄り添い、精神的なケアを行う事ができることを実感した事例。	80歳男性。長男と旅行に行き、帰宅する際に回転寿司を食べた。自宅で耳鳴が出現し、当院救急搬送後に多量の嘔吐にてイレウス疑いで、電解質異常・リハビリ・在宅調整など3ヶ月入院された。認知機能低下もあり、入院の必要性がわからず、帰宅願望が強く落ち着かない状況で転倒リスクあり、車椅子でNSステーションで過ごす事が多かった。時間確保し、自宅の地図を一緒に見て探したり、グーグルアースで写真地図を見ながら昔話を笑顔で話をしてくれて落ち着いた。	帰宅願望のある方に「帰れませんよ」と伝えるよりも、具体的にどんな家だったのかなど聞きコミュニケーションをとることで、帰宅への意識が薄れ他の話題に集中したという経験が出来た。本人の帰りたいという気持ちを大事にし、思いの表出に繋げていきたい。 テーマ：精神的ケア	中村主任
1月	遊佐　結実子	1.「民医連のめざす看護の基本となるもの」の評価視点である以下の3点が特に素晴らしくベストオブきらりに認定しました。 ①患者の見方・捉え方：患者を個人として尊重され生きる権利が保障される存在であると捉えたか。 ②看護の視点：患者の生命力を高め、健康回復のために課題を共有し克服できるよう支援する。 ③看護の視点：患者の潜在的、顕在的な要求を引き出し受け止めその実現に向けて取り組む。 Ⅱ．患者の思いから在宅での生活に目を向け、家族全体のたケアに取り組むことができた事例	40歳女性。脳出血後の左麻痺あり。A氏と2人暮らし。乳癌後の骨メタあり。今回は脳出血後のリハ目的で入院。退院に向けて、在宅での車いす移乗やおむつ交換、清拭などをA氏に指導実施。しかし、患者本人はA氏が仕事で不在となる夜間のおむつ処理が不安で眠れないとの訴えがあり、チームスタッフと本人と相談し麻痺のない手でのパット交換を提案。夜間に1回のみパットを抜くだけなら出来るのではないかと、話をしてやってみるとの声も聞かれ、見守りの中本人も実施し、朝まで漏れることなく良眠された。「気づいてくれてありがとう」の声も聞かれた。（このあと、おむつマイスター研修が開催され参加。）	入院時は様々なスタッフが患者を見守り支える体制が整っているが、在宅ではそうもいかない。患者それぞれにいろんな生活リズムがあり不安も違う。それを退院前に引き出し、不安を軽減できる取り組みができた事例 テーマ：患者の気持ちに寄り添い、患者家族のQOL向上に取り組むことの大切さ	菅原師長
2月	藪野　真夕	Ⅰ.「民医連のめざす看護の基本となるもの」の評価視点である以下の3点が特にすばらしくBESTOfキラリに認定しました。 ①患者の見方・とらえ方：患者を個人として尊重され生きる権利が保障される存在であると捉えたか。 ②患者の見方・とらえ方：医療は患者の主体的な参加によって成り立つと認識したか。 ③看護の視点：患者の状況や訴えなど事実をありのままに捉え、想像力を働かせて理解し、共感する。 ④看護の視点：患者の潜在的・顕在的な要求を引き出し、受けとめ、その実現に向けて取り組む。 Ⅱ．患者の不安をうまく拾い上げ、患者の気持ちに寄り添い、退院に向けての支援ができた事例	男性。胃癌末期、炎症反応上昇し歩行困難になり入院。徐々にADLアップし車イスに乗れてそろそろ自宅退院を医師と家族含めて病状説明をしていた。本人はそこで本音を言えず「車イスに乗れたとしても他のことが出来ない。なんだか回りが動いていて私は置いてけぼりの様だ。今はまだ退院について考えられない」との訴えが聞けた。日勤者へ申し送り、本人の思いを汲み取るようカンファレンスを依頼。それによりもう少しADLが安定してから退院を考えることとなった。次の勤務時「藪野さんのおかげです。あなたがいると安心します」と感謝の言葉をもらえた。 その後は車いす移乗できるようになり在宅復帰でき、自宅で訪問サポートを受けている。	限られた時間でしかサポート出来ない分、その人にとってのここでの入院生活は人生におけるほんのわずかな期間だと思う。（急性期・療養除く）自分はその人の命を預かっているという自覚を持ち、いかにその人らしく生きられるように手助けをするのが大事かということ。患者一人一人の出会いにも感謝し、思いやる心を忘れず、何か命の、心のサポートを出来たらいいと思う。 テーマ：患者に寄り添う大切さ	関主任
3月	河内　由典	Ⅰ.「民医連のめざす看護の基本となるもの」の評価視点である以下の点が特にすばらしくBESTOfキラリに認定しました。 ①看護の視点：患者の状況や訴えなど事実をありのままに捉え、想像力を働かせて理解し、共感する。 ②看護の視点・優点：患者の病態、生活史、労働し、環境を重ねて理解し、共感する Ⅱ．患者の話から好きなことをくみ取り、入院生活にそのひとらしい日常を取り入れ、入院生活を少しでも明るくすることができた事例	80代　女性　胃癌末期　腹水貯留　食欲不振 談話室で食事摂取中の会話の中から歌が好きと知り、昭和歌謡を歌ったところ、一緒に口ずさんでいた。コミュニケーションツールの一つとして、一緒に昭和歌謡を歌うことにした。 認知症はあったが、スタッフがどういう人なのかを認識していた。顔を合わす度に冗談を言いながら入院生活が暗いものにならないように心掛けた。	患者さんとの何気ない会話の中から患者さんを知り、その人らしい入院生活を支えていくことの大切さが伝わってくる事例。 また、患者の生活史に触れて、潜在的要求を引き出せた事例。 患者さんの好きな歌謡や、冗談を通して入院生活を少しでも暗くならないように支援することにつながった。 テーマ：患者の楽しみを知り、入院生活を支えることの大切さ	園田師長